

幸せとの出会い。

地域婚活プロジェクト最前線

少子化問題、結婚率の低下を背景に、婚活という動きがクローズアップされて久しい。結婚は、勢いとタイミングだ、と言われることがある。

どんなに周到な計画を立てても実らない結婚がある一方で、なんとなくそんな流れで、といった「雰囲気」に背中を押されるケースも少なくない。

そんな、「結婚を意識させる雰囲気作り」で、少子化や晩婚化を食い止めようという取り組みがある。NPO法人、市主催のものと2ケースの婚活プロジェクトを追った。

静岡県 恋人の聖地プロジェクト

静岡市にあるNPO法人「地域活性化支援センター」では、少子化対策と地域の活性化を同時進行で実現させ

ようという「恋人の聖地プロジェクト」を展開している。2006年の4月より、全国の観光地域の中から、プロポ



100ヶ所を超えた「恋人の聖地」は、各地域による様々な活動を通して、若いカップルのみならず、新たな観光スポットとして注目を集めている

ーズにふさわしいロマンティックなスポットを「恋人の聖地」として選定、若者のみならず、地域社会全体に向けて結婚に対する明るい希望と、結婚の「雰囲気」の醸成を図る活動をしている。

理事長を務める志垣恭平氏は、活動の意義をこう語る。「国や行政による少子化対策は、子育て支援など結婚後の経済的な要因の解消などに向けられていますが、現実には非婚化や晩婚化の進行も、少子化問題の大きな要因となっています。そこを解決するために、未婚の男女に結婚に対する明るい希望や未来をイメージしてもらい、結婚へのポジティブな気持ちを抱いてもらいたいです」。

これまで、恋人の聖地に選定された場所は109箇所。おめでたい名前前で御利益がありそうな「愛国駅」「幸福駅」（北海道）、ハッピーエンドの「おつしよべ恋物語」が400年も前から語り継がれている「粟津温泉」（石川県）、引き潮の間だけ姿を現す砂の道にロマンティックな名前が付けられた「エンジェルロード」（香川県）など、既存の観光資源を活用した聖地が全国で続々と生まれている。中には、豊臣秀吉の死後、その菩提を弔うために正室の北政所が建立した「高台寺」（京都府）といった、



聖地というだけあって、結婚の願掛けが行われている

歴史に名を残す夫婦愛の象徴と言える場所も聖地としてラインナップされているのも興味深い。

特筆すべきは、連携による相乗効果も期待されているところだ。「単独では情報発信力に乏しい地域でも、聖地同士が連携することで、それまで以上の情報を全国に発信することができ、恋人の聖地プロジェクトは、少子化対策に関する取り組みと、地域の活性化の融合を図ることができる」と志垣氏。しかし、と続ける。「このプロジェクトは、雰囲気醸成するという抽象的な展開にとどまっておらず、非婚化や晩婚化へのより具体的な取り組みは、各地における婚活的な展開に任せざるを得ないのが現状でした。地域活性化と融合した取り組みとしては成果を挙げられないところもあつた。



NPO法人 地域活性化支援センター理事を務める、ファッションデザイナーの桂 由美さんも恋の演出に一役買っている

性化支援センターをはじめ、静岡県経営者協会、連合静岡、静岡県労働福祉の労使4団体により設立され、働く人の仕事と生活の充実に向けて、個人に

光を当てる様々な「ライトアップ事業」を展開、中でも非婚化・晩婚化の対策をより具体的に実行している。昨年、静岡県からの支援を受けて開

催した「L.W.ライトアップパーティー」は、男女の出会いの機会を提供する内容で、いわば県助成の婚活イベント。1465名が参加、111組のカップル

が誕生し、続々と結婚を果たしている。少子化や、その元となる非婚化・晩婚化によって、結婚自体に縁遠くなつてしまっている現代人。結婚によって

得られるものはいくつか挙げられようが、「安心感」という心理的な充足のウエイトは大きい。安心感のある充実した私生活を送ることで、仕事への取り

組み方も変わるはずだ。今後の静岡が、どれだけ安心感に溢れた社会となつていくのか、注目したい。